

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
男性同性間の HIV 感染対策とその評価に関する研究

**RDS 法を用いた ‘hidden population’ に対する調査法の開発
—ゲイコミュニティーのソーシャルネットワーク内での介入の浸透度の評価—**

研究協力者：金子典代（名古屋市立大学大学院看護学研究科/エイズ予防財団）

山本政弘¹⁾、牧園祐也²⁾、Kyung-Hee Choi³⁾、鬼塚哲郎⁴⁾、辻宏幸⁴⁾、塩野徳史⁴⁾、
山田創平⁴⁾、後藤大輔⁴⁾、佐藤未光⁵⁾、河邊宗知⁵⁾、江島啓介⁵⁾、小浜耕治⁶⁾、太田
貴⁶⁾、Angel Life Nagoya、日高庸晴⁷⁾、市川誠一⁸⁾

1) 国立九州医療センター 2) Love Act Fukuoka 3) UCSF Center for AIDS Prevention
Studies 4) MASH 大阪 5) Rainbow Ring 6) 東北 HIV コミュニケーションズ 7) 京都大
学大学院医学研究科/エイズ予防財団 8) 名古屋市立大学大学院看護学研究科

研究要旨

本研究の目的は、1) リスポンデント・ドリブン・サンプリング法を援用した携帯電話による調査システムを開発すること、2) 開発したシステムを用いて、ゲイ CBO メンバーを中心とするソーシャルネットワークの特性と、ネットワーク内のゲイ CBO の HIV 予防啓発活動の浸透度、HIV 感染予防行動や検査受検行動の定着度、予防規範の浸透度を明らかにすることである。2006 年より第一段階として、福岡、東京、大阪にて調査を実施し、第 2 段階として仙台、福岡、名古屋にて実施した。対象者のリクルートは各地域のゲイ CBO メンバーからゲイ・バイセクシュアル男性の友人に協力を依頼し、友達から友達へと紹介を拡げ、対象者を拡大させる方法を用いて第一段階では 233 名、第 2 段階では 128 名より有効回答を得ている。本報告は、2006 年末から 2007 年にかけて実施した福岡、東京、大阪の第一段階の調査結果と 2007 年 12 月より第 2 段階として実施した仙台、福岡（2 回目）の結果に関するものである。

第一段階の調査のデータ分析では、CBO メンバーから紹介を受けた層を第 1 層、第 1 層から紹介を受けたものを第 2 層と、以後同様に階層分類を行い階層別の比較を行った。第 1 層、2 層、3-5 層の 3 階層間で比較すると、階層が遠方にいくほど予防啓発プログラムの認知率や HIV 陽性の友人がいる割合が低くなること、特定相手とのコンドーム使用意図が低いこと、過去 6 ヶ月に会ったゲイの友達の人数（ネットワークサイズ）が少ないと、ネットワークメンバーとのセーフセックスに関する会話頻度が低いこと等が明らかとなった。第 2 段階の調査では仙台や名古屋地域での CBO を中心とする社会的ネットワークの実態に関するデータを初めて収集した。また福岡にて 2 回目の調査を実施し、介入プログラムの浸透度の経年的評価を可能にするためのデータを収集した。

今後も各地で経年的に本調査を実施していくことで、介入の浸透度の評価が可能になると見える。また、本調査システムはコミュニティーに顔を出すことが少ない層の実態把握に資するデータ収集が可能な点、比較的少ないマンパワーで調査実施が可能である点、予防啓発プログラムの浸透度を評価できる点で有用性がある。

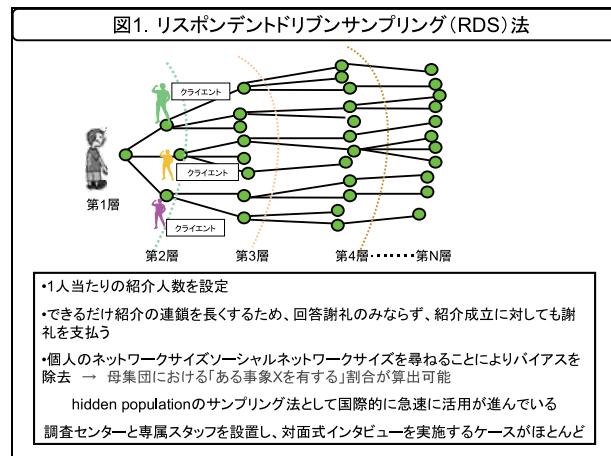
A. 研究目的

ゲイコミュニティには、ゲイバーなど商業施設のオーナーをとりまくネットワーク、趣味のサークルやグループのメンバーをとりまくネットワークなど多種類のものが存在するが、中でもゲイ CBO をとりまくネットワークは予防啓発活動を浸透させていく上でも重要なネットワークである。比較的閉鎖的なゲイコミュニティにおいて、ゲイ・バイセクシュアル男性からの情報は信頼性も高く、影響力を有するものであることが考えられ、情報を浸透させるチャンネルとして重要な機能を担っていると考えられる。しかし、わが国ではゲイ・バイセクシュアル男性のソーシャルネットワークの実態に焦点をあてた研究が行われていないため、ゲイ・バイセクシュアル男性のソーシャルネットワークの実態、ゲイ CBO が実施する予防介入プログラムのネットワーク内での浸透度など、明らかになっていない点が多い。

また、ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした HIV 予防研究のデザインを考えるに当たって、最も重要なことの一つにサンプリング方法の問題がある。過去の研究では、ゲイタウン内の商業施設の利用者に対して調査を行い、実態を把握する試みを実施してきた。しかし、近年わが国のゲイ・バイセクシュアル男性における出会いの場は急速に変化しクラブイベントなどに顔を出さないもの、出会い系サイトなどのサービスを用いてセックスパートナーと出会うゲイ・バイセクシュアル男性が増加しているがこれらの hidden population にアクセスすることを目指した調査は大規模インターネット調査以外には存在しないのが実状である。

そこで、コミュニティに顔を出すことが少ないゲイ・バイセクシュアル男性も含めたコミュニティでの啓発活動の浸透度の評価に資するデータを収集するために、RDS 法というサンプリング法（図 1）を用いた携帯電

話による調査システム（以下 RDS 携帯調査システム）の開発を行った。また開発した調査システムを用いて、九州、大阪、東京、東北、東海地域に居住するゲイ・バイセクシュアル男性を対象にしたゲイ CBO メンバーを起点とする調査を実施し、各地域のゲイ CBO 予防活動の評価の基礎資料を得るために本研究を実施した。



B. 研究方法

I. 研究スケジュール、本調査の概要

1) 研究のスケジュール

RDS 法を用いた携帯によるアンケートシステムや質問項目の作成、開発したプログラムを用いた本調査は各地の CBO と協働にて行った。

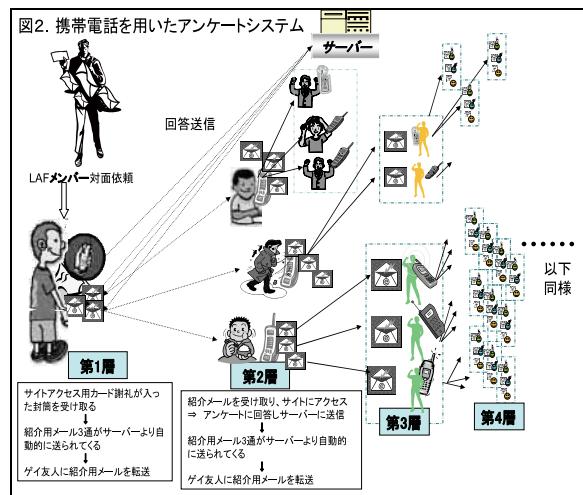
2) 開発したアンケートシステムの概要

開発したシステムを用いた第一段階の本調査は福岡、東京、大阪の順に、第 2 段階では仙台、福岡、名古屋の順にゲイ CBO と協働にて実施した。本調査は、福岡地域では、2006 年 10 月から 11 月、東京地域では 2 月から 3 月、大阪地域では 5 月から 6 月にかけて実施した。第 2 段階では仙台は 11 月より、福岡は 12 月より実施した。

本研究にて開発した RDS 携帯調査システムは（図2）、携帯電話においてのみアクセスが可能であり、携帯電話に付属の電子メール機能を用いて対象者の紹介を拡大するシステムとなっ

ている。対象者のリクルートは、まず各地域のゲイCB0のメンバーが自分のゲイ・バイセクシュアルの友達（第1層）にアンケートサイトのアクセスに必要な案内カードを直接手渡しし、回答協力を依頼した。ゲイCB0メンバーの依頼により参加条件に同意し、アンケートに回答した者（第2層）がさらにその友人（1人につき最大3人まで）をアンケートに紹介し、対象者層の拡大を図った。参加基準は、福岡では九州地域、東京では関東地域、大阪では関西地域、仙台では東北地域、名古屋では東海地域に居住していること、18歳以上のゲイ・バイセクシュアル男性であることとした。アンケート回答者にはメールで送信可能なギフト券を提供した。

なお、本研究実施計画については、名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会より実施の承認を得た。



3) 調査項目

質問紙構成は基本属性、自身の性指向のカミングアウト、暴力・被差別経験、ゲイCB0の予防啓発資材の受け取り・認知率、ゲイCB0の実施する予防介入プログラムへの参加・認知率、生涯、過去1年のHIV抗体検査の受検、性行動、ソーシャルネットワークサイズと陽性者の身近さなどであった。

II. 分析方法

本調査では、ゲイCB0メンバーからの回答は分析の対象外とし、全体の基礎集計を行う

とともに、第一段階の調査で収集したデータは、第1層、第2層、第3-5層と3群に分けて、分析を行った。分析時に階層群とカテゴリー変数間のクロス集計を行う際にはカイ二乗検定を用いた。独立2群間と3階層群間の関連の傾向性の検定にはMann-Whitney検定を用い、3群以上の多群間と3階層群との関連の傾向性の検定には Kraskal-Wallisの検定をもちいた。また過去6ヶ月の肛門セックス相手人数、ソーシャルネットワークのサイズの連続変数を3階層群間で比較する際は一元配置分散分析を用いた。全ての検定において、有意水準は5%を採用した。

C. 研究結果

I. 第一段階の調査結果

1) 対象者の背景（表1）

第一段階の本調査は、福岡、東京、大阪の順に実施し、各68名、78名、87名、合計233名の回答を得た。年齢は、10-20歳代が全体の64.8%を占めていた。全体のうち、231名（99.1%）が男性との性行為経験を有していた。過去6ヶ月の間に性行為を行った者も174名（74.7%）であった。

	n	%	回答者の居住地域(N=233)
階層			
第1層	114	(48.9)	層の長さ 最長第5層まで拡大
第2層	79	(33.9)	
第3-5層	40	(17.2)	
年齢			
10-29歳	151	(64.8)	
30歳代	71	(30.6)	
40歳代	7	(3.0)	
無回答	4	(1.7)	
教育歴			
中学	8	(3.4)	
高校	91	(39.0)	
大学・大学院	134	(57.6)	
自認する性指向			
ゲイ	217	(93.1)	
バイセクシュアル	14	(6.0)	
分からぬ	2	(0.9)	
男性との肛門セックス経験			
あり	231	(99.1)	
なし	2	(0.9)	
過去6ヶ月の肛門セックス経験			
あり	174	(74.7)	注1) 生涯の肛門セックス経験者のみ対象
なし	59	(25.3)	

2) 性的指向をカミングアウトしている相手、被差別経験（表2）

自身の性的指向をカミングアウトしている相手を複数回答にて尋ねたところ、父親、姉

妹、異性愛の友達へのカミングアウト割合は層との有意な関連が見られ、第1層がもっとも高く、層が進むにつれ低くなっていた。母親、父親、女姉妹、異性愛の友達、職場の同僚へのカミングアウトは、第3-5層にいくほどカミングアウト率が低くなっていた。被差別経験については、「異性愛者のふりをした事がある」と回答した者がいずれの階層においても最も多かった。「家族を困らせたり傷つけたりした」、「友達をなくした」経験割合と階層の関連が見られ、3-5層に行くほど低かつた。

	第1層 n ¹⁾ (%)	第2層 n ¹⁾ (%)	第3-5層 n ¹⁾ (%)	P値 ²⁾
カミングアウトしている相手 (複数回答)				
ゲイ・バイセクシュアルの知人				
異性愛の友達	104 (91.2)	73 (92.4)	37 (92.5)	0.945
職場の同僚上司	78 (68.4)	48 (60.8)	17 (42.5)	0.008
母親 層が遠いほど低い	32 (28.1)	15 (19.0)	5 (12.5)	0.086
父親	40 (35.1)	16 (20.3)	9 (22.5)	0.055
女姉妹	23 (20.2)	4 (5.1)	4 (10.0)	0.008
男兄弟	10 (8.8)	5 (5.1)	2 (5.0)	0.531
親戚	8 (7.0)	3 (3.8)	0 (0)	0.177
被差別経験 (複数回答)				
異性愛者のふりをした	26 (81.3)	33 (91.7)	16 (84.2)	0.443
ゲイが普通でないと聞いた	50 (61.0)	37 (67.3)	15 (53.6)	0.467
家族を困らせたり傷つけた	25 (30.5)	4 (7.3)	2 (7.1)	0.001
友達をなくした	25 (21.9)	8 (10.1)	1 (2.5)	0.004
家族から受け入れられなかった	18 (15.8)	5 (6.3)	4 (10.0)	0.123
暴力やいじめを受けた	12 (14.6)	5 (9.1)	0 (0)	0.083
0.033				

注1) 欠損値を分析より除外したため総数が異なる。注2) 左はカイ二乗検定、右は傾向性検定、*行内入数は一元配置分散分析の有意差

3) ゲイ向けサービスや施設の利用、ゲイ CBO 活動との接触

過去6ヶ月に利用したゲイ向けサービスの利用については、クラブイベントの参加は、階層が遠方に行くほど、利用率が低かつた。

各地域のHIV予防に関する情報誌の入手率やプログラムの認知は、階層が遠くなるほど入手率や認知率は低くなっていた。(図3-5)。

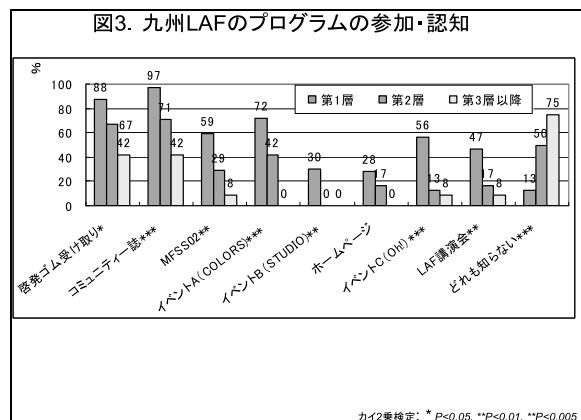
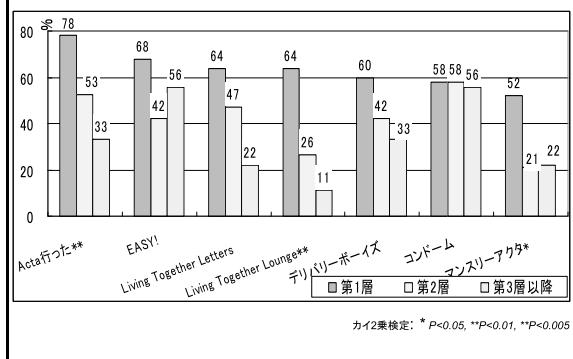
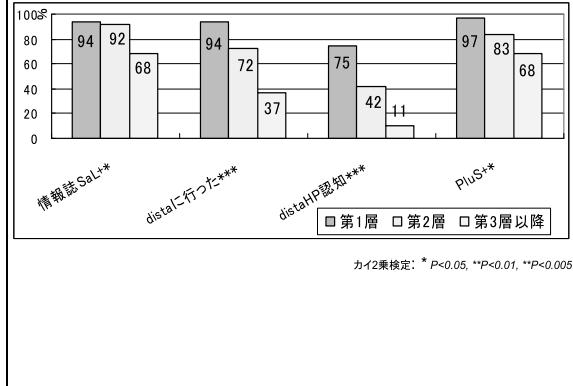


図4. 東京Rainbow Ringプログラムの参加・認知



カイ2乗検定: * P<0.05, **P<0.01, ***P<0.005

図5. MASH大阪プログラムの参加・認知



カイ2乗検定: * P<0.05, **P<0.01, ***P<0.005

4) 性行動、コンドーム使用、検査行動、性感染症既往歴

過去6ヶ月のアナルセックス経験割合はいずれの階層においても75%を超えていた。過去6ヶ月の性行為相手人数は第2層で最も低く2.6名であり、第1層、第3-5層ではそれぞれ5.6名、5.1名と5名をこえていた。特定相手との常用意図は、階層が遠くに行くほど「毎回使用したい」と回答した割合が低くなっていた。生涯でのHIV抗体検査の受検経験は全体では60%を超えていたが、過去1年の検査受検経験率は階層が遠くなるほど低かった。

5) ソーシャルネットワークサイズ、ネットワークメンバーとの会話、規範、HIV陽性者の身近さ (表3)

ソーシャルネットワークサイズを過去6ヶ月に実際に会い、お互いに連絡先を知つてい

るゲイ・バイセクシュアルのお友達の人数と定義し、その数を尋ねた。ネットワークサイズは、階層が遠くなるほど小さくなる傾向が見られ、第1層では平均50.7名であったが、第3-5層では21.6名であった。また、過去6ヶ月に実際に会いお互いに連絡先を知っているゲイ・バイセクシュアル男性(ネットワークメンバー)のうち、過去6ヶ月のセーフアーセックスに関する会話を行った者の有する割合についても尋ねたところ、第1層のうち、52名(48.1%)がメンバーとセーフアーセックスに関する会話があったと回答したが、第3-5層では会話があったものは7名(20.0%)であった。

HIV陽性者の知人・友人の有無と階層の間には有意な関連が見られ、第1層では66名(57.9%)の者が「いる」と回答したもの、第3-5層では7名(17.5%)と階層が遠くなるほどHIV陽性の知人・友人がいる割合が少なくなっていた。

表3. ソーシャルネットワークと予防情報のやり取り、行動規範、HIV陽性者の友人の身近さ (N=233)

	第1層 n ¹⁾ (%)	第2層 n ¹⁾ (%)	第3-5層 n ¹⁾ (%)	P値 ²⁾
ソーシャルネットワーク(SN)サイズ ³⁾				
平均±SD	42.7±52.5	32.0±29.7	21.6±19.0	0.015 (F値4.3)
SNメンバーのうちセーフセックスに関する話をした者の割合				
多い～少しいる	52 (48.1)	29 (39.7)	7 (20.0)	0.013 0.007
ない～ほとんどない	56 (51.9)	44 (60.3)	28 (80.0)	
SNメンバー内のコンドーム常用者割合				
いる	35 (33.3)	18 (28.6)	12 (42.9)	0.409 0.747
全く～ほとんどない	70 (66.7)	45 (71.4)	16 (57.1)	
HIV陽性者の知人・友人の有無				
あり	66 (57.9)	33 (41.8)	7 (17.5)	0.000 0.000
なし	48 (42.1)	46 (58.2)	33 (82.5)	

注1) 各項目を分析により除外したため総数が異なる。
注2) 左はゲイ・異性恋、右は結婚性恋別の有無差を示す。
注3) ソーシャルネットワークサイズ：名調査地域(九州、関東、関西)で過去6ヶ月に実際に会い、お互いの連絡先を知っているゲイ・バイセクシュアルの友達の人数

II. 第2段階の調査結果

2007年12月より仙台、福岡にて実施した調査結果の基礎集計を別表4-別表11に示した。仙台では60件、福岡では62件の有効回答を得た。

D. 考察

本調査では、ゲイ・バイセクシュアル男性に対してHIV感染予防に働きかけるボランティア活動を行う福岡、東京、大阪のゲイCBO

のメンバーを基点として、回答者層を拡大する方法を採用したため、本研究の回答協力者は、予防活動に積極的に関わるものを中心同心円状に広がるゲイネットワークの構成員と考えることができる。

本研究の対象者は、20-30歳代のものが95%以上をしめており、比較的若い年齢層がメンバーとなっているゲイCBOから紹介を広げたこと、携帯電話を用いた調査であったことが関係すると考えられる。今後も携帯電話を用いて、ゲイCBOから紹介を拡大する方法をとった場合には、主に若い年齢層の実態を把握するための調査法となることが考えられる。紹介層の広がりについては、多くは第2層、3層にて紹介がとまっていた。RDS法が成立する条件の一つとして、紹介の連鎖が長く続きデータが飽和した時点でのサンプリングを終了するということがあり、紹介の連鎖がさらに長く続くためには、調査の事前周知を徹底し、RDS携帯調査システムの信頼性を高めることなどの工夫が必要である。男性とのアナセックス経験はほぼ全員が有していた。対象者の年齢層も関係していると考えられるが、RDS携帯調査システムは、比較的性行動が活発な層の実態把握の調査手法として有用であることが考えられる。

階層別に各ゲイ向けサービスの利用率をみると、ゲイバーの利用は階層に関係なく高いが、クラブイベントは階層が遠くなると利用率が下がる傾向が見られた。また、出会い系サイトの利用率は階層が遠くなるほど高い傾向があり、ゲイコミュニティへの顔出しが少ないものもインターネットサイトによるゲイ・バイセクシュアル男性との出会い系サービスを利用していることを示唆するとも考えられる。

階層別にゲイCBOが商業施設等で配布しているコンドームやHIVや性感染症予防、情報誌の受け取り率、ゲイCBOが運営するコミュニティセンターの来訪や認知率についてク

ロス集計を行った。その結果、配布している情報誌は第1層では77%の受け取り率があるが、第3-5層になると50%と低くなっている、コンドームの入手率も、階層が遠方となるほど受け取り率が低いこと、コミュニティーセンターも階層が遠方になるほど有意に来訪・認知率は低くなっていた。本調査は回答者数が少ないため、代表性には限界があるものの、よりゲイコミュニティー活動への参加や認知が少ない層に向けての予防介入の重要性を示唆する結果と言えるだろう。

生涯の検査受検は、いずれの階層においても60%を越えており、ゲイCBOを中心とするソーシャルネットワークで検査受検行動は比較的浸透している事を示唆していた。しかし、過去1年間の受検経験は階層が遠いほど低くなっていた。性行動の活発度に応じた定期的な受検行動の定着にはどのような知識、きっかけ、検査受検環境の整備が関連するのかを明らかにする必要がある。

性行動については、過去6ヶ月の性行動経験は、階層に関わらず75%を超えており、過去6ヶ月のアナルセックスのパートナーの人数は第3層において最も多かった。また、過去6ヶ月間のコンドームの常用割合やコンドーム使用行動の意図は、特定相手との場合において階層が遠くなるほど低い傾向が示され、ゲイCBOからの距離と性行動の活発度には関連がみられないが、ゲイCBOから離れるほど特定相手とのアナルセックスにおける予防への意識は低くなっていることが示唆された。

ソーシャルネットワークのサイズと階層の関連に関しては、階層が遠方になるほどソーシャルネットワークサイズが小さくなっている、実際の対面での付き合いがゲイCBOメンバーに近い階層では多いが、階層が遠くなると対人コミュニケーションを持つものが少ない可能性が示唆された。

また、ゲイCBOから遠くなるほどソーシャルネットワークメンバーとの会話があると回

答したものやHIV陽性者の知人がいるものの割合が有意に低くなっていた。ゲイCBOメンバーに近い階層では、HIV陽性者の声や生活に触れる機会があるものの割合が高いが、階層が遠くなるにつれてHIV感染症を身近に感じる機会や情報への接触機会が少ないことが考えられる。身近にHIV陽性者がいることや、HIV陽性者の生活や状況を認識しHIV感染症が身近であることを認識することは、自らの行動を振り返る機会につながり、HIV感染リスクの認識を高めることに有効であることが指摘されている。これらの効果をねらって、HIV陽性者を身近に感じることやHIV陽性者との共生を主唱する予防介入プログラムやイベントが全国のゲイCBOで実施されている。ゲイCBOが実施するイベントに参加したり、活動に触れる機会が少なくゲイCBOからの距離がある階層においても比較的利用率が高いインターネット、携帯サイト、ゲイバーなどのゲイ向けのサービスも活用し、HIV陽性者の身近さを感じることができるような介入を考案していく必要がある。

本研究において開発したシステムの有用性については、自身の望む場所や時間帯での回答が可能となるため、将来的にも調査に用いるツールとして有望であることが考えられる。また、どの階層まで紹介が進んだかを記録することで、CBOが発信するHIV予防の情報がコミュニティーの中で、どの程度まで浸透しているのかという情報を含んだデータを収集する事が可能となった。現時点では、携帯電話によるインターネットサービス接続料金が高額であること、地理・物理的環境によっては良好なインターネット接続環境の確保に限界があること、一画面に提示できる情報量の限界があること、限られたキーボードでの情報入力となるため、操作ミスが起きる可能性が高いことによる限界がある。現段階の技術や携帯電話の使用環境では、様々な限界点があるものの、今後も携帯電話の普及や機能の

改善が進む事が考えられ、有望な調査手法となることが考えられる。今後は、本研究により示された限界点や課題を克服し、より実用性の高いシステムに改善する必要がある。

E. 発表論文等

(国際学会発表)

- 1) Noriyo Kaneko, Masahiro Yamamoto, Kyunghee-Choi, Yasuharu Hidaka, Seiichi Ichikawa: Cell phone survey using RDS to investigate MSM's social networks and HIV risk behaviors in Japan, The 8th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific, Sri Lanka, July. 2007.

(国内学会発表)

- 1) 金子典代、日高庸晴、市川誠一：携帯電話を用いた男性同性愛者の社会的ネットワークとHIV感染リスクに関する調査、日本公衆衛生学会、2008年11月、愛媛
- 2) 金子典代、山本政弘、佐藤未光、鬼塚哲郎、日高庸晴、市川誠一：携帯電話を用いたゲイ・バイセクシュアル男性の社会的ネットワークとHIV感染リスクに関する調査、日本エイズ学会、2007年12月、広島

別表4. 【東北】 対象者の背景 (N=60)

	n	%
居住地域		
仙台市	29	(48.3)
仙台市以外の宮城県	11	(18.3)
福島県	9	(15.0)
山形県	5	(8.3)
岩手県	2	(3.3)
青森県	3	(5.0)
秋田県	1	(1.7)
年齢		
10-20歳代	14	(23.3)
30歳代	33	(55.0)
40歳以上	13	(21.7)
自認する性指向		
ゲイ	48	(80.07)
バイセクシュアル	9	(15.0)
分からぬ・その他	3	(5.0)
教育歴		
高校	18	(30.0)
短期大学・専門学校	12	(20.0)
大学・大学院	29	(48.3)
無回答・非該当	1	(1.7)
過去6ヶ月に利用したゲイ向けサービスの場所 (複数回答)		
宮城県	42	(70.0)
福島県	6	(10.0)
山形県	3	(5.0)
岩手県	3	(5.0)
青森県	2	(3.3)
秋田県	1	(1.7)
東京都	19	(31.7)
その他	15	(25.0)
過去6ヶ月に利用したもの (複数回答)		
ゲイバー	36	(60.0)
ゲイナイト	14	(23.3)
サウナ系ハッテン場	7	(11.7)
マンション・ビデオハッテン	8	(13.3)
その他ハッテン場	8	(13.3)
ゲイショップ	18	(30.0)
ゲイ向け出会い系サイト	17	(28.3)
ソーシャルネットワーキングサイト	45	(75.0)
いずれも利用なし	5	(8.3)

別表5. 【東北】 やろっこの認知、エイズ検査受検 (N=60)

	n	%
やろっこを知っていますか？		
知っている	37	(61.7)
知らない	23	(38.3)
下記のイベントプログラムを知っていますか？ (複数回答)		
僕らの課外授業Living Together	24	(40.0)
男魂	17	(28.3)
やろっこ交流会	23	(38.3)
Love Beach Project	22	(36.7)
東北バレー ボール大会	40	(66.7)
Future	21	(35.0)
郡山ゲイナイト	19	(31.7)
ぼくらの課外授業 web site	10	(16.7)
やろっこHP	16	(26.7)
やろっこブログ	6	(10.0)
いずれも知らない	9	(15.0)
やろっこのコンドーム受け取り経験		
あり	33	(55.0)
なし	27	(45.0)
やろっこのポストカードの受け取り		
あり	30	(50.0)
なし	30	(50.0)
エイズ検査受検経験		
ある	23	(39.0)
なし	36	(61.0)
無回答	1	(1.7)
過去一年エイズ検査受検		
受けた	13	(21.7)
過去1年に受けていない	11	(18.3)
非該当	36	(60.0)
一番最後のエイズ検査の受検場所		
病院	7	(11.7)
クリニック/診療所	1	(1.7)
保健所・保健センター	14	(23.3)
イベント検査	1	(1.7)
その他	1	(1.7)
非該当	36	(60.0)

別表6. 【東北】 性行動・予防行動 (N=60)

	n	%
男性とのanalセックス経験		
あり	58	(96.7)
なし	2	(3.3)
過去6ヶ月のanalセックス経験		
あり	33	(55.0)
なし	25	(41.7)
無回答	2	(3.3)
過去6ヶ月の特定相手とのコンドーム使用		
特定相手とanalせず	4	(6.7)
毎回使った	11	(18.3)
毎回使うことが多かった	5	(8.3)
五分五分	2	(3.3)
使わない方が多かった	2	(3.3)
全く使わなかつた	8	(13.3)
非該当	27	(46.7)
過去6ヶ月のその場限り相手とのセックス時のコンドーム使用		
その場限り相手とanalせず	17	(28.3)
毎回使った	12	(20.0)
毎回使うことが多かった	3	(5.0)
五分五分	1	(1.7)
使わない方が多かった	0	(0.0)
全く使わなかつた	0	(0.0)
無回答・非該当	27	(45.0)
今後の特定相手とのコンドーム使用意図		
毎回使いたい	15	(25.0)
できるだけ使いたい	11	(18.3)
あまり使いたくない	2	(3.3)
使いたくない	0	(0.0)
決めていない	5	(8.3)
非該当	27	(45.0)
今後のその場限り相手とのコンドーム使用意図		
毎回使いたい	27	(45.0)
できるだけ使いたい	6	(10.0)
あまり使いたくない	0	(0.0)
使いたくない	0	(0.0)
決めていない	0	(0.0)
非該当	27	(45.0)

別表7. 【東北】 性行動・予防行動 (N=60)

	n	%
最後の anal 相手		
特定	27	(45.0)
その場	6	(10.0)
無回答・非該当	27	(45.0)
最後の anal 時のコンドーム使用		
使った	13	(39.4)
使わなかつた	14	(42.4)
無回答・非該当	6	(18.2)
HIVに感染する可能性の認識		
絶対ない	3	(5.0)
ほとんどない	18	(30.0)
五分五分	17	(28.3)
十分可能性がある	9	(15.0)
分からぬ	12	(20.0)
非該当	1	(1.7)
HIV感染者の知人・友人の有無		
いる	19	(31.7)
いると思う	8	(13.3)
いない	12	(20.0)
分からぬ	20	(33.3)
非該当	1	(1.7)
東北地域で過去6ヶ月にあつたゲイ・バイセクシュアル友人人数 (平均±SD)		
24.2±33.5 人		

別表8. 【九州】 対象者の背景 (N=62)

	n	%
居住地域		
福岡市	35	(56.5)
北九州市	4	(6.5)
福岡市、北九州を除く福岡県	17	(27.4)
福岡県・沖縄県以外の九州地域	6	(9.7)
自認する性指向		
ゲイ	59	(95.2)
バイセクシュアル	3	(4.8)
年齢		
10歳代	5	(8.1)
20歳代	28	(45.2)
30歳代	24	(38.7)
40歳以上	5	(8.1)
教育歴		
中学	0	(0.0)
高校	16	(25.8)
短期大学・専門学校	11	(17.7)
大学・大学院	34	(51.6)
過去6ヶ月にどの地域のゲイ向け施設を利用したか		
福岡市	61	(98.4)
北九州市	12	(19.4)
福岡市、北九州市を除く福岡県	0	(0)
沖縄県	3	(4.8)
福岡県、沖縄県以外の九州地域	7	(11.3)
その他	17	(27.4)
過去6ヶ月に利用したもの		
ゲイバー	58	(93.5)
ゲイナイト	36	(58.1)
サウナ系ハッテン場	16	(25.8)
マンション・ビデオハッテン	14	(22.6)
その他ハッテン場	6	(9.7)
ゲイショップ	36	(58.1)
ゲイ向け出会い系サイト	33	(53.2)
ソーシャルネットワーキングサイト	49	(79.0)
いずれも利用なし	0	(0.0)

別表9. 【九州】 検査受検・性行動 (N=62)

	n	%
生涯でのエイズ検査受検経験		
ある	41	(66.1)
ない	21	(33.9)
過去1年のエイズ検査の受検		
受けた	23	(37.1)
過去1年に受けていない	18	(29.0)
エイズ検査を受けた事がない	21	(33.9)
一番最後の検査の受検場所		
病院	7	(11.3)
クリニック/診療所	4	(6.5)
保健所・保健センター	28	(45.2)
イベント検査	1	(1.6)
郵送検査	1	(1.6)
エイズ検査を受けた事がない	21	(33.9)
男性との肛門セックス経験		
あり	62	(100.0)
過去6ヶ月の肛門セックス経験¹⁾		
あり	49	(79.0)
なし	13	(21.0)
過去6ヶ月間の肛門セックス相手人数 (平均±SD)		
	1.9±0.7	人
過去6ヶ月の特定相手とのコンドーム使用		
特定相手と肛門せず	4	(6.5)
毎回使った	15	(24.2)
毎回使うことが多かった	10	(16.1)
五分五分	2	(3.2)
使わない方が多かった	8	(12.9)
全く使わなかつた	10	(16.1)
無回答・非該当	13	(21.0)
過去6ヶ月その場限り相手とのセックス時のコンドーム使用		
その場限り相手と肛門せず	14	(22.6)
毎回使った	22	(35.5)
毎回使うことが多かった	10	(16.1)
五分五分	5	(8.1)
使わない方が多かった	3	(4.8)
全く使わなかつた	4	(6.5)
無回答・非該当	13	(21.0)

別表10. 【九州】 検査受検・性行動 (N=62)

	n	%
今後の特定相手とのコンドーム使用意図		
毎回使いたい	24	(38.7)
できるだけ使いたい	21	(33.9)
あまり使いたくない	6	(9.7)
使いたくない	2	(3.2)
決めていない	9	(14.5)
今後のその場限り相手とのコンドーム使用意図		
毎回使いたい	49	(79.0)
できるだけ使いたい	11	(17.7)
あまり使いたくない	1	(1.6)
使いたくない	0	(0)
決めていない	1	(1.6)
最後のアナル相手		
特定	44	(71.0)
その場	17	(27.4)
無回答・非該当	1	(1.6)
最後のアナル時のコンドーム使用		
毎回使った	35	(56.4)
使わなかつた	25	(40.3)
無回答・非該当	2	(3.2)
HIVに感染する可能性の認識		
絶対ない	7	(11.3)
ほとんどない	24	(38.7)
五分五分	14	(22.6)
十分可能性がある	12	(19.4)
わからない	5	(8.1)
HIV感染者の知人・友人の有無		
いる	15	(24.2)
いると思う	10	(16.1)
いない	20	(32.3)
分からない	17	(27.4)
九州地域で過去6ヶ月にあったゲイ・バイセクシュアル友人人数 (平均±SD)		
	42.3±40.5 人	

別表11. 【九州】 LAFの認知 (N=62)

	n	%
LAF (Love Act Fukuoka) 知っていますか？		
知っている	49	(79.0)
知らない	13	(21.0)
LAFを何で知りましたか？)	
配布されているコンドーム	29	(46.8)
season (バーのマップつきのペーパー)	24	(38.7)
コミュニティーセンターhaco	19	(30.6)
友達からのクチコミ	28	(45.2)
ゲイバーでのクチコミ	14	(22.6)
イベント (LAF主催以外)	13	(21.0)
LAFのHP	3	(4.8)
mixiの日記	10	(16.1)
mixi (LAFコミュニティー)	9	(14.5)
K@toom	12	(19.4)
その他	6	(9.7)
下記のコンドーム受け取り経験		
あり	52	(83.9)
なし	9	(14.5)
無回答・非該当	1	(1.6)
下記のコミュニティーペーパーを見た経験		
あり	52	(83.9)
なし	9	(14.5)
無回答・非該当	1	(1.6)
博多コミュニティーセンター「haco」を知っていますか？		
行ったことがある	33	(53.2)
知っている	16	(25.8)
知らない	13	(21.0)